

第六回 復曲試演の会 (代替公演)

復曲能

篁

たかむら

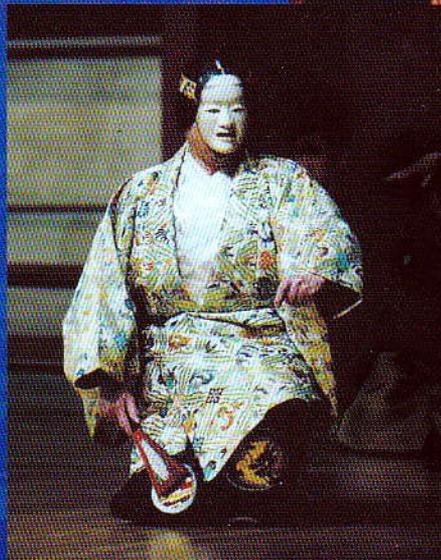
室町時代に廃絶した幻の能が復活



能

葵上

古演出による



型付	節付	補校	監修
味方	吉浪	西野	西野
玄	壽晃	方玄	春雄

令和3年 2月13日(土)

午後1時開演 (12時開場)

S席(1階 正面 指定席)	8,000円
A席(1階 脇正面 指定席)	7,000円
B席(1階 中正面 自由席 / 2階 自由席)	6,000円
学生席(2階 自由席)	2,000円

※通信講座受講生、放送大学、老人大学は一般料金です。

< チケットは11月1日(日)午前9時より販売 >

新型コロナウイルス感染予防のガイドラインに沿った対策を講じるため、約240席の限定発売となります。今後、規制が緩和された場合、チケット追加発売を検討いたします。追加発売の有無は、令和3年1月中旬にホームページ等でお知らせいたします。

会場 京都観世会館

〒606-8344 京都市左京区岡崎円勝寺町44
(東山仁王門東入)

ご予約・お問合せ TEL 075-771-6114

http://www.kyoto-kanze.jp (WEB予約は自由席のみ)

- ◎JR京都駅からは市バス [5] [100]、三條京阪からは市バス [5] に乗車し、「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車
- ◎四條河原町から市バス [31] [46] [201] [203] で「東山仁王門」下車
- ◎地下鉄東西線「東山」下車、山番出口から徒歩5分
- ◎東隣に有料駐車場(約20台)あり



主催 公益社団法人 京都観世会

「復曲試演の会」とは—

上演が途絶えていた作品を現代の能舞台上に復活させる京都観世会の取り組みです。「もし上演され続けていたら、現代に生きる能楽師はどのように演じるか」を思いながら、文献を紐解き、二年がかりで節付、型付等を行い、公演を迎えます。「篁」は数種類の伝本と、室町後期の装束付伝書「舞芸六輪之次第」の鬼之能の記載を頼りに、西野春雄氏の監修により能を立体化しました。

第六回 復曲試演の会 令和三年二月十三日(土) 午後一時始

「響き合う詩人の魂——篁と後鳥羽院——」 西野 春雄 (法政大学名誉教授)

(二時三十分頃)

後鳥羽院 片山九郎右衛門

小野篁 味方 玄

復曲

篁

後鳥羽院に 宝生 欣哉

所の者 小笠原由嗣

後見 青木 道喜

味方 團

地謡

大江 広祐 橋本 光史
河村 和貴 分林 道治
橋本 忠樹 吉浪 壽晃
吉田 篤史 浦田 保親
田茂井廣道 浦部 幸裕

休憩 二十分

(仕舞)

実盛 河村 和重

雨之段 大江又三郎

山姥 井上 裕久

地謡

河村 和晃
浅井 通昭
古橋 正邦
河村 晴久
松野 浩行

(三時四十五分頃)

(能)

巫女 片山 伸吾
青女房 大江 信行
六条御息所 河村 晴道

古演出による

葵上

横川小聖 有松 遼一
臣下 岡 充
従者 泉 慎也

大鼓 谷口 正壽 井上 敬介
小鼓 曾和 鼓堂 森田 保美

後見 林 宗一郎

河村 博重

地謡

樹下 千慧 梅田 嘉宏
河村浩太郎 越賀 隆之
大江 泰正 浦田 保浩
宮本 茂樹 深野 貴彦

附祝言 (終了予定 午後五時頃)

篁 — たかむら —

小野篁は、政務能力に優れた平安初期の漢詩人・歌人。後の小倉百人一首に「わだの原八十島かけて漕ぎ出でぬと人には告げよ海人の釣舟」が選定された。多情多感、博識で世俗に妥協せぬ反骨の士。身長六尺二寸(約188cm)の巨漢で、野宰相、野相公、野狂とも称された。世阿弥時代の説話集に「炎魔宮ノ第三ノ冥官ノ化生ナル故ニ、身ハ朝廷ニ仕ヘ、魂ハ冥途ニ通セリ」とあり、京都・六道珍皇寺には伝説の「冥土通いの井戸」「黄泉がえりの井戸」がある。

隠岐(島根県)へ流され果てた悲運の歌人帝王・後鳥羽院の心情を、同じく隠岐へ流され、そこで果てた篁をして慰める展開(果てた話はフィクション)。地獄の冥官(閻魔の庁の役人)としての篁が、地獄の金札(善行、悪行の者の名が記され、極楽、地獄が決まる)を手に現れ、逆臣らを地獄へ落とす沙汰を見せる。その姿を後鳥羽院の内なる逆鱗と重ねあわせ、心情をおおきなスケールで描く。

晩春。隠岐の島へ後鳥羽院を訪ねるため、北面の武士だった男が僧の姿となり出雲国千酌の浜に来る。釣舟を操る老人に「沖まで」と頼むが、沖にさしかかると「とてものことに隠岐まで」と真の目的を明かす。老人は、配流の地・隠岐は厳戒だから近づけぬと断るが、僧の強い志に打たれ命をかけて渡そうと漕ぎ出す。やがて島へ着いた老人は、名を小野、さらに篁の古歌を言いさして、海へ戻っていく。＜中入＞院と対面できた僧がその老人のことを話すと、院は、さては篁の霊であろうと推量し、島内にある篁の塚を尋ね弔う。すると塚から、地獄の冥官すなわち鬼形の篁の霊が現れ、逆臣の輩をことごとく即座に地獄へ落とし、院の叡慮を慰めるのだった。

葵上 — あおいのうえ —

『源氏物語』葵の巻などに取材し、六条御息所をヒロインとして、恋慕と嫉妬、因果などの普遍的な主題を描く曲である。今回の古式では、『申樂談儀』にある犬王道阿弥所演の「葵上」の記事に基づき、曲を貫くモチーフである「破れ車」(賀茂の祭の車争いで打ち壊された屈辱の象徴)の作り物を出し、車副の女(青女房)をツレとして登場させ、脚本の整合性を明らかにする。

ただ今回は、能が志向した具象から抽象、象徴性への道を大切にし、昔帰りでなく、未来志向の演出にしたい。

六道珍皇寺にて「篁」謡奉納

10月15日(木) 午後1時～(雨天決行・一般見学可) 境内の「閻魔・篁堂」にて謡の一部を奉納いたします。

(京都市東山区松原通東大路西入小松町 595) 市バス「清水道」下車 徒歩5分

「篁」プレ公演 一般公開

12月23日(水) 午後1時～ 学術研究者・マスコミ向けの発表会を公開。 公演後、記者会見も見学可能。(全席指定 5,000円(税込) 11/1発売 ※100名限定)

謡本「篁」は京都観世会館にて販売致します。(11月発売予定 5,000円)

お客様へのお願い

※新型コロナウイルス感染症予防対策として、入場時の検温、手指消毒、マスク着用のご協力をお願い申し上げます。 発熱、咳などの風邪症状、倦怠感など体調が優れない場合は、ご来館前に医療機関にご相談願います。 ※入場券ご購入後のキャンセルはできません。 ※許可のない写真撮影・録音・録画はお断り致します。 ※見所(客席)内での飲食・携帯電話の使用はできません。 ※出演者の変更の場合はご了承ください。

写真「篁」味方 玄/「葵上」河村晴道 撮影 金の星渡辺写真場